

## 未来を生きる子どもたちへのメッセージ ③⑥

### 『横井照子氏と津島高等女学校』

津島市の郷土学習について。私の1年間の活動の流れは、春は「津島まちあそび・歴史文化講座」、夏は「天王子ども塾」「尾張津島天王祭絵画コンクール」、冬は「津島の達人ジュニア歴史検定・選手権」を行っています。絵画コンクール以外は、どの行事も10年以上続いているイベントばかりです。この他に津島ガイドボランティアの皆さんによる出前授業もあります。さて、最近の「津島まちあそび・歴史文化講座」では「海部津島の近現代の文化人」を取り上げています。津島の野口米次郎・杉本健吉・松下芝堂、あま市の小笠原登、弥富の大錦大五郎・服部担風、愛西市の神野金之助・青樹英二についてお話をしてきました。(皆さんは何人の方を知っていますか) 今年津島市が生んだ世界的な洋画家横井照子氏と津島高等女学校について報告するつもりです。

横井照子氏は名古屋市生まれの津島育ち。お父様横井榮二氏は津島北小学校(津島第四尋常小学校)の校長先生でした。子どもの頃、鈴木光基氏より油絵の指導を受け、津島高等女学校・女子美術大学聴講生・カルフォルニアスクールオブファインアーツで学び、アメリカ・スイスで抽象画を描くようになりました。スイス・ベルンで活躍。現代美術画家の地位を確立しました。現在、日本には『横井照子ひなげし美術館』(岐阜県恵那市)・『横井照子富士美術館』(静岡県富士市)氏の個人美術館があります。また津島市には『菜の花』『自画像』『遠山』などの作品が残っています。繊細でエネルギッシュ、ハスの花など津島の風景をモチーフにした抽象画を描きました。

横井照子氏が通学した学校が津島高等女学校です。津島高等女学校は大正3年に、津島尋常高等小学校の兼平分校を仮校舎として開校しました。大正6年に現在の文化会館の場所に学校を移しました。大正12年に津島町立から愛知県立に移管し、大正デモクラシーを象徴する自由でハイカラな教育を進めました。海水浴や伊吹山登山、箱根・江の島への修学旅行。当時の代表的な文化人であった荻原井泉水や西田天香、野口米次郎らも講演会で訪れました。女学校の創立20周年の記念式典では、与謝野晶子の講演会も実施されました。戦争が終わった昭和23年に津島高校に統合されました。この女学校の自由闊達な雰囲気は照子に大きな影響を与えたのかもしれませんが。校舎のまわりの蓮田の広がる風景が、照子氏の原風景となり、抽象画の中に描かれたようです。

令和5年3月9日

津島市教育委員会  
教育長 浅井厚視